



4/11・12 地域へ感謝の気持ちを込めて ～春の感謝祭～

▶祭りには40人ほどのボランティアスタッフも駆けつけました



荒尾市社会福祉事業団は福祉村の同事業団内グラウンドで春の感謝祭を開催しました。いつもお世話になっている地域の皆さんに日頃の感謝の気持ちを伝えたいと、春と秋の年2回、行われています。祭りでは、演奏やダンスなどのステージ発表、食品バザー、野菜・花苗の販売やフリーマーケットなどが行われ、多くの来場者でにぎわいました。普段は小岱作業所に勤務し、当日の祭りスタッフとして参加した人は「地域の人と交流できるので、毎回楽しみにしています」と、話していました。

4/11 地元産の新鮮野菜をお届け ～荒尾ときめき市 20周年記念イベント～

▶お盆と年末年始以外、ときめき市は毎日営業中です



荒尾ときめき市 20周年記念イベントは岩本橋駐車場で行われました。目玉商品として、旬のたけのこやたけのこを使った惣菜が販売され、たくさんの方が買い求めていました。常連客は「地元産の新鮮な食材が手頃な値段で手に入るの、ありがたいです」と、にっこり。同市組合長の井村長明さん（上井手下）は「家庭で作り過ぎた野菜を販売するようになって20年間、多くのお客さんに支えられてきました。これからも新鮮な食材をお届けしたい」と、話していました。

4/29 郷土の宝に触れ、まつりを楽しむ ～万田坑市民まつり～

▶万田保育園の園児たちは「くまモン体操」を元気に披露しました



万田坑市民まつり実行委員会は万田坑市民まつりを開催しました。万田坑前広場では、荒尾太鼓による迫力のパフォーマンス、地域の幼稚園や住民の皆さんによる歌や踊りなどの披露、老若男女が参加したクイズ大会やビンゴゲームが行われました。ことし7月頃の世界遺産登録を目指す万田坑。いよいよ目前に迫った登録へ向け、出演者と800人ほどの来場者は一体になって、盛り上がっていました。

5/3 悠々と空をはためく ～岩本橋鯉のぼりまつり～

▶3月下旬から5月上旬まで、岩本橋には20本の矢旗が並び、200匹ほどの鯉のぼりが泳いでいました



平井校区元気づくり委員会は岩本橋鯉のぼりまつりを開催しました。まつりに使う矢旗と鯉のぼりは市民の皆さんから提供してもらっています。あいにくの雨で、平井小学校体育館で行われましたが、市内外から500人以上が訪れ、楽しいひとときを過ごしました。地元園児による合唱・お遊戯、さのよい踊り、花苗販売やフリーマーケットのほか、子どもたちが歌う「鯉のぼり」の元気な歌声に合わせて、鯉のぼりの掲揚が行われました。

4/12 和やかな春のひととき ～春の牡丹茶会～

▶130人ほどが癒しのひとときを過ごしました



宮崎兄弟の生家で春の牡丹茶会を行いました。訪れた人は生家の庭に咲き誇る紅・白・薄紫色など色とりどりの牡丹を愛でながら、荒尾市茶道会が振る舞うお茶とおかしを満喫。日本の伝統文化や郷土の偉人・宮崎兄弟に触れ、和やかな時間を過ごしました。市外から訪れた人は「牡丹が咲くのをずっと心待ちにしていました。花がとてもきれいで、お茶もおいしかったので、はるばる来てよかったです」と、笑顔をこぼしていました。

4/14・15 艶やかに舞う ～上荒尾熊野座神社春季例大祭～

▶子ども神楽は市重要無形民俗文化財に指定されています



上荒尾熊野座神社で春季例大祭「ごんげんさん（通称：上小路子ども神楽）」が行われました。小学生から中校生までの子ども10人が男子は狩衣、女子は舞衣をまとい、御幣・弓・剣・鈴などをもち、笛や太鼓に合わせて十曲十二座の舞を奉納。「五穀豊穰」「家内安全」を祈願しました。初めて舞手を務めた子どもは「練習では舞を覚えるのが大変でしたが、本番ではきちんと踊れてほっとしました。緊張したけれど、楽しかったです」と、話していました。

5/4 世界文化遺産 登録目前！ ～「明治日本の産業革命遺産」世界文化遺産登録勧告～

▶万田坑第二豎坑ヤグラ（左）と第二豎坑巻揚機室（右）



ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）世界遺産委員会の諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）は「明治日本の産業革命遺産」を世界文化遺産に登録するよう勧告しました。万田坑や専用鉄道敷跡は日本の近代化を石炭産業で支えたことが評価され、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなっています。7月頃にはユネスコ世界遺産委員会で世界文化遺産に登録されるかどうかが決まります。郷土の宝・万田坑の応援をよろしくお願いします。

5/7 美味しいお茶を収穫 ～府本小学校 茶摘み～

▶後日、新茶は保護者、地域の人や市役所などに配布されました



府本小学校の全校生徒は校内にある茶畑で茶摘みを行いました。同校には50aの茶畑があり、ことしは30kgほどの新茶が採れました。子どもたちは茶摘みに参加した地域の人や保護者と触れ合いながら、一生懸命、茶葉を摘んでいました。子どもたちは「黄緑色の柔らかいお茶の葉を摘むように心掛けました。新茶を飲むのが楽しみです」と、笑顔で話していました。新茶は校内で行うお茶会で飲んだり、子どもたちが家庭に持ち帰ったりして楽しむそうです。